

令和2年7月31日

まちづくり委員会資料

こすぎコアパーク及び周辺地域の
さらなる魅力向上に向けた整備の実施について

建設緑政局

こすぎコアパーク及び周辺地域のさらなる魅力向上に向けた整備の実施について

1 こすぎコアパークの概要

こすぎコアパーク（以下、コアパーク）は、「まちの玄関口」として、武蔵小杉周辺地域の核（コア）に位置し、東急東横線・東急目黒線武蔵小杉駅（以下、武蔵小杉駅）南口に隣接する都市公園である。昭和41年に都市計画決定し整備された「小杉第一公園」が、武蔵小杉駅南口地区西街区の第一種市街地再開発事業（平成16年12月都市計画決定）による都市型住宅、大型商業施設等の整備に伴って、平成26年に移設・再整備されたオープンスペースを有する公園となっている。



2 現状・課題

(1) 管理運営・利用状況

・町内会、商店街、NPO法人小杉駅周辺エリアマネジメントから構成されるこすぎコアパーク管理運営協議会（平成27年9月設立）による地域イベント等の利用調整や清掃等の日常的な維持管理などが行われている。

・定期的にイベントが開催されているほか、ラジオ体操が行われるなど、賑わいや交流の場として利用されている。

〔主なイベント〕

コスギンピック（6月）、こすぎ盆踊り大会（7月）、コスギフェスタ（10月）など

(2) 課題

- ・休憩施設等が少ないこともあり、イベント時以外は、通過経路としての利用が多く、賑わいや憩いの場としての利用が少ない。
- ・公園の植栽帯と武蔵小杉駅高架下のフェンスにより公園と駅が分断されている。
- ・駅に隣接する植栽帯付近が、公園の死角となっており、ゴミのポイ捨てがされやすくなっている。

※以上の状況を踏まえ、平成31年2月19日にこすぎコアパーク管理運営協議会から市に「こすぎコアパークの活性化に向けた地域要望書」が提出されている。



3 取組の方向性

こすぎコアパークが武蔵小杉駅に隣接している立地特性等を踏まえ、以下の取組を推進する。

- ・駅前の貴重なオープンスペースとして、限られたスペースを最大限活かした日常的な賑わいと憩い、出会いと交流の空間づくり
- ・公園の美化の推進や安全性の向上による美しく快適な環境づくり
- ・公園と隣接する武蔵小杉駅等との一体的な空間利用による回遊性の向上
- ・町内会・自治会や再開発によるマンション居住者、商店街やNPO、事業者等の多様な主体が集い、つながることによる地域コミュニティの活性化の場づくり



以上の取組を着実に進めるため、コアパークと武蔵小杉駅及び周辺地域の一体的な整備や適切な管理運営が不可欠となることから、コアパークの駅前の立地特性とこれに隣接する鉄道施設の公共性を相互に活かし、東急(株)と連携・協力した取組を推進していくための覚書を令和元年8月30日に締結。

4 整備内容・スケジュール（案）

(1) 整備内容

■全体イメージ（公園西側からの全景）



- ・飲食施設及び飲食・食物販施設の設置
 - ・ベンチ、植栽等の広場整備
 - ・公園と武蔵小杉駅高架下間のフェンス、植栽帯による分断の解消及び一体的な歩行空間整備
- ※整備に係る費用は、東急(株)が負担
 ※飲食施設及び飲食・食物販施設の管理運営は東急(株)が実施し、公園の維持管理は川崎市が実施

■ 飲食施設（公園南側）



※パースはイメージ。今後変更となる可能性がある。

公園南側に設置する2階建ての飲食施設。1、2階にテラス席を設け、開放的な空間を創出

- ・ 構造：鉄骨造・2階建て
- ・ 延床面積：約275㎡
- ・ 建築面積：約162㎡

（うち公園敷地内：約81㎡）

※都市公園法に基づく設置許可

■ 飲食・食物販施設（公園北側）



※パースはイメージ。今後変更となる可能性がある。

公園北側に設置する飲食も可能な食物販施設。公園と調和したデザインで、公園との一体利用により、日常的な憩いの空間を創出

- ・ 構造：木造・1階建て
- ・ 建築面積：約32㎡

※都市公園法に基づく設置許可

■ 武蔵小杉駅高架下からみたイメージ



※パースはイメージ。今後変更となる可能性がある。

公園と武蔵小杉駅高架下間のフェンス、植栽帯による分断の解消と一体的な歩行空間の整備による回遊性・利便性の向上

(2) スケジュール (案)

令和2年8月上旬
9月
令和3年夏頃

整備に関する協定締結
着工
完成・供用開始